

古典文学でたどる海の道 ・瀬戸内

瀬戸内海は古くから海の道として知られ、栄えてきました。人や物資の往来にとどまらず、海の道を通じて文化が伝わり、信仰がひろがり、時には戦の場として地域の歴史が積み重ねられました。この講座では、古典文学作品や地域に伝わる史料に記された瀬戸内の風景や地名に注目し、中世文学を専門とする講師がそれぞれの視点と切り口で瀬戸内海の歴史を紹介します。

- 日 時：平成 25 年 6 月 1 日・6 月 15 日・6 月 22 日・6 月 29 日（全 4 回）
土曜日 10：30～12：00（6 月 1 日のみ 13:00～14:30 で開講します）

- 会 場：広島県立図書館会議室（広島市中区千田町 3 丁目 7-47）

■内 容：

日 程	テ ー マ	講 師
6 月 1 日	西の国を思う人々 －平安・鎌倉時代を中心に－	県立広島大学人間文化学部教授 西本 寮子
6 月 15 日	和泉式部と尾道 －伝承定着の背景を探る－	尾道市立大学芸術文化学部准教授 藤川 功和
6 月 22 日	武士のみた瀬戸内 －今川了俊『道ゆきぶり』を読む－	尾道市立大学芸術文化学部准教授 藤川 功和
6 月 29 日	文化流通の海 －戦国時代から江戸時代－	県立広島大学人間文化学部教授 樹下 文隆

- 受 講 料：無料

- 募 集 人 数：35 名

- 対 象：どなたでも（原則として全回、出席できる方）

- 申 込 方 法：往復はがきで、往信面の裏に、①郵便番号、②住所、③名前、④ふりがな、⑤電話番号を、返信面の表に受講される方の郵便番号、住所、名前（「〇〇様」）をご記入の上、平成 25 年 5 月 16 日（木）（消印有効）までに下の申込先にお送りください。

申込多数の場合は抽選となります。受講の可否は
申込締切日以降に返信はがきでお知らせします。

※申込にあたってお寄せいただいた個人情報
は県立広島大学公開講座のご案内以外の目的には使用しません。

(返信面の表)	(往信面の裏)
〇 〇 〇 〇 様	①郵便番号 ②住所 ③名前 ④ふりがな ⑤電話番号

- 申 込 ・ 問 合 せ 先：

〒734-8558 広島市南区宇品東 1-1-71

県立広島大学地域連携センター「古典文学講座」係

電話（082）251-9534（平日 9:00～18:00）

- 主 催：広島県立図書館、県立広島大学地域連携センター



講座内容



第1回 西の国を思う人々ー平安・鎌倉時代を中心にー

西本 寮子

平安時代の文学作品に瀬戸内の地名を見いだすことは容易ではありませんが、まったくないわけではありません。律令制下、国司として西国に赴任した貴族たちは瀬戸の海を船で行き来し、「西の国のおもしろき浦々」（『源氏物語』）を脳裏に刻むこともあったと思われます。和歌や物語などに断片的に記される地名を手がかりとして、瀬戸を旅した人々の思いを探ってみます。

第2回 和泉式部と尾道ー伝承定着の背景を探るー

藤川 功和

広島を代表する観光スポットの一つである尾道は、「坂の街」、「寺の街」、「文学の街」…などさまざまな異名を持ちます。

その尾道には、歴史上の人物に纏わるエピソードも数多く存在しますが、その中の一つに和泉式部伝承があります。

今回は、尾道に和泉式部伝承が定着した背景を、中世文学を手掛かりに探ってみてゆきたいと思えます。

第3回 武士のみた瀬戸内ー今川了俊『道ゆきぶり』を読むー

藤川 功和

高僧、慈円（じえん）が著作『愚管抄』（ぐかんしょう）の中で、「（保元の乱以後は）ムサ〔武士〕ノヨ〔世〕ニナリニケル」と評したように、中世は武士の時代とも言われ、その影響は文学の世界にも及びます。平安時代、紀貫之によって書かれた『土佐日記』に代表される旅を題材にしたいわゆる紀行文も、中世においては武士が書き手として登場するようになり、彼らの中には瀬戸内について書き記した者も少なくありません。今回はその中から今川了俊（いまがわ・りょうしゅん）という室町時代の武将の記した『道ゆきぶり』を取り上げ、彼が瀬戸内をどのように描いたのかをみてゆきます。

第4回 文化流通の海ー戦国時代から江戸時代ー

樹下 文隆

戦に明け暮れた戦国時代とはいえ、雄を争う大名はむしろ競って文化を盛んにしました。そして、太平の世となった江戸時代、瀬戸内の城下町や港町では、いろいろな文化が根付いていきました。江戸時代においても海は交通の要。物資とともに人々が行き交うことで、港町に文化が根付きます。地元に残る資料を中心に瀬戸内の芸能文化を探ってみます。